

体制改革を推進する中国空軍

漢和防務評論 20171004(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍の将来像を中国空軍はどう描こうとしているのか？
従来の断片的情報を整理したような記事を紹介します。
全体像を見ると、規模と内容が米空軍を真似ているように見えます。なぜそうなるのか？
将来、米空軍と世界規模で戦う覚悟があれば別ですが、そうでなければ、中国空母と同じで、形だけ米軍を追随しているようにしか見えません。

王振華特集記事

中国空軍は、第 4 世代装備を骨幹とし、第 3 世代装備を主体に、改修した第 2 世代装備をもって補完する空軍武器装備体系を逐次形成しつつある。現在、同時に空中早期警戒管制機、大型長距離フェーズド・アレイ・レーダーの開発を推進しつつある。また早期警戒衛星及び高高度無人偵察機の開発、新型データリンク技術の開発、航空宇宙一体化した C4ISR 系統の建設を推進し、偵察・早期警戒・探知システム・武器システム間のシームレスな接続を実現しようとしている。また空軍は、第 4 世代戦闘機、新型無人攻撃機、先進型空中発射巡航ミサイル及びその他精密誘導爆弾の開発を促進するよう要求している。KDR は以前に、中国空軍がすでに新型戦略爆撃機、改良型大型軍用輸送機、航空宇宙作戦機及び新概念兵器の開発を事業化し、長距離精密打撃能力を強化しようとしていることを報道した。

中国空軍は、これと同時に：新時代の” 高新工程” 電子偵察妨害機及びネットワーク戦装備を速やかに開発すること。現役の主力装備を改修し、作戦機に新型レーダー、データリンク及び精密誘導武器を搭載すること。普通航空爆弾に精密誘導システムを取付けること。現役の主力地上防空兵器、レーダー及び指揮通信装備に電子対抗設備を取り付けること等々、を推進している。

中国空軍は、先進的な地对空ミサイルの比率が増加しつつある：現在、S-300 等、第 3 世代地对空ミサイルの装備比率は 40% に達している。計画では、2020 年以降、第 3 世代地对空ミサイルの装備比率は 80% 以上に達するであろう。空軍が使用する精密誘導爆弾は、シリーズ化体系化され、13 個のタイプがある。その中には射程 1500KM の空中発射巡航ミサイルが含まれる。

情報ネットワークも強化されている：中国空軍は、” 四網一体” のネットワーク概念を提議している。情報支援ネットワーク、作戦指揮ネットワーク、武器コントロール・ネットワーク、通信基礎ネットワークの” 四網一体” を核心とす

る情報化発展理念を正式に確立した。”四網一体”の基本的内容は、フィルター技術を運用し、通信基礎ネットワークを建立する。地上は光ケーブルにより、空中はデータリンクを使用し、各種情報源、各級指揮系統、及び主力航空機、地上防空武器及び支援ユニットを接続し一体化する。

中国空軍は次のように考えている：“四網一体”は、航空作戦をプラットフォーム中心戦からネットワーク中心戦に転換する方途であり、三軍一体化情報系統の重要な構成要素である。現在、中国空軍の全体訓練は、数百万平方 KM の範囲での多数個師団・旅団を伴った、大区域・多兵種を組織した対抗演習では、“四網一体”に依拠し始めた。

主要作戦方向と重点地区では、特に東部、南部の戦区空軍では、ネットワーク化された指揮統制系統が構築された。団、旅団以上の作戦部隊を接続する光ファイバー、衛星通信、マイクロ波通信の基礎設備は、ほぼ完成した。

近年来、台湾海峡、東シナ海の戦役演習活動において、多くの航空部隊が 100 ソーター以上の出撃規模となり、類似の作戦計画策定に要する時間も、過去は数日かかったのが、現在は数時間で完了するようになった。機動配備の武器プラットフォームも 3 分以内に作戦に投入可能になった。

戦略輸送能力は、新型輸送機 Y-20 が装備されたことにより向上した。しかし機数が不足している。現在、中国空軍の戦略輸送能力は、米軍の 2% のレベルであり、ロシア軍の 3% である。空輸と救難用ヘリコプター戦力はロシア軍の 5% レベルであり、米軍に比べても 17% である。

しかし早期警戒能力は明らかに高まっている。KJ-2000 早期警戒機は 5000 乃至 10000M の高度を飛行すれば、400KM 以内の目標を同時に 60 乃至 100 個追跡することができる。

2016 年から、J-16 型多用途戦闘機の生産が加速し始めた。世界的に見て、攻防兼備型と称する空軍は、作戦機全体に占める進攻型航空機の比率は、一般に 40 乃至 60% である。たとえば米空軍の作戦機の総数は 2760 機以上で、そのうち、攻撃機、爆撃機、特種戦機は 670 機以上であり、比率は約 25% である。その上、制空と進攻の両方の任務を果たせる戦闘機、例えば F-15E 及び F-16 があり、するとその比率は 50% を超える。インド空軍は作戦機総数が 740 機で、そのうち戦闘爆撃機が 280 機以上、比率は 40% に近い。中国空軍の過去の装備は、制空戦闘機の比率が高かった。現在、進攻能力のある航空機は作戦機全体の約 30% である。J-16 の機数が増えるに従ってこの比率は高くなるであろう。

東部戦区空軍では、台湾軍及び米軍を模擬する”合成青軍”を建設している。戦力の要素を十分に考慮し、航空攻撃から地上防空、ハードキルからソフトキルまで、兵、機種は様々揃えている。航空戦力方面だけでも、数十種類の機種

の作戦分隊がある。専門の旅団、団級部隊に相当する”仮想敵部隊”がある。”合成青軍”の装備の性能は、その他の部隊に比べ高くしている。通常、SU-30MKK戦闘機が台湾軍主力戦闘機に扮する。

以上